

令和３年度使用中学校教科用図書採択に係る

第１回選定委員会議事録

１ 日 時 令和２年５月１８日（月）１３：３０～１６：３０

２ 場 所 東広島市役所 北館２階 会議室２０１

３ 出席委員 山田委員（委員長）、脇坂委員、木原委員、宮田委員、松原委員、下野委員、
田中委員

４ 事務局 小川学校教育部次長兼指導課長、三井指導主事、高橋指導主事

５ 議事要録

<司会>高橋指導主事

（１）開会行事

- ・教育委員会が選定委員会に対し、令和３年度使用中学校教科用図書採択に係る選定について諮問後、開会し、國廣学校教育部長が開会挨拶を行った。
- ・学校教育部長退出後、委員紹介、事務局紹介を行った。その後、小川学校教育部次長兼指導課長が、今回の教科用図書採択の概要（「小中学校教科用図書採択に係る選定委員会規則」「令和３年度に東広島市立学校で使用する教科用図書の採択方針」「採択までの手続き」）についての説明を行った。
- ・続いて委員長の選出を行った。
- ・選出方法について委員に意見を図り、事務局より山田委員に委員長をお願いしたいと提案をし、満場一致で了承された。

（２）協 議

- ・山田委員長が委員長席につき、挨拶を行った後、議事に入った。

（山 田）本日協議することは、調査研究の観点と視点です。まず、観点についてですが、案として広島県の採択基本方針で示された観点と同一のものということですが、事務局側から観点について、何かありますか。

（事務局）先ほど委員長が言われました通り、観点につきましては、県の選定資料を基に作成しております。

（山 田）議論する前に、目の前に新しい教科書がありますので、こちらを見ていただいた上で議論を進めていきたいと思います。２時までご自由に、新しい教科書を見ていただきますようお願いいたします。

（XXXXXXXXXX）教科書を見る前に、これらの教科書は、去年の教科書会社と変わっているものがありますか。

（事務局）変わっている教科もあれば、変わっていない教科もあります。中学校では、来年度より、新しい学習指導要領が始まります。それを踏まえて教科書採択が行われるという視点で、教科書をご覧いただければと思います。

(山 田) ご自由にご覧ください。

【閲覧する】

(山 田) 2時になりました。よろしいでしょうか。さきほど、事務局から来年度から学習指導要領が改訂されることを言われましたが、新学習指導要領のポイントについて、お話ししたいと思います。基本的な考え方については、3つあります。まずは、生きる力を育成しようということです。教育基本法の改正等で明確になった教育の理念を踏まえています。2番目に、知識及び技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視するということです。これは、要するに系統的にいろいろなことを学ぶと同時に自主的、能動的、主体的な学びを行える内容を目指すということです。3番目に、道德教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を形成する、特に道德教育を充実する、という方針が示されております。具体的なポイントとしましては、いくつかありまして、まずは、言語活動の充実ということで、国語だけでなく様々な教科で言語活動を充実させるということです。そして、理数教育の充実です。高校では、「探究」という言葉があるくらいで、中学校でも理科で使われています。主体的に学べるような姿勢をつくる、これも系統的な学びにつながると考えられます。次に、伝統や文化に関する教育の充実ということで、古文や漢文を充実させる、歴史教育を充実させる、日本の文化、そろばん、和楽器、唱歌等を充実させる、武道を必修化するということも含まれます。そして、道德教育の充実も柱になっています。また、体験活動の充実ということで、様々な体験をしながら学ぶということです。そして、外国語教育の充実ということで、更に実践的で話したり聞いたりすることに力を入れて外国語教育を充実させるという方針があります。この点について、何か新しい内容等があればお願いします。いかがでしょうか。

() 主体的な学びがキーワードになっています。そして、生徒自ら課題発見・課題解決していくということで、単元全体を通して学習課題を明確にさせて生徒が主体的に、深く学んで互いに表現し合って学びを深めていくことが求められていると思います。今回の教科書はかなり、写真などの情報がたくさん入っています。むしろ情報がたくさんありすぎて混乱もしやすいかなというところもありますが、どの教科書も充実した中身になっていると思います。教師の目から見て、使いやすいという部分が大きなポイントとなってくると思います。最終的に、使いやすさが授業を組み立てる上で大切である、ということにつながっていくと思います。各教科から調査結果が上がってきますので、その意見を十分に踏まえていきたいと思います。生徒が主体的、能動的、そして対話的に学習ができる教科書が求められているかな、と思います。

(山 田) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

() 先ほど、 委員からもあったように、主体的な学びとか課題発見・解決学習などを現場では意識しています。だから、そういう学習を仕組みやすい教科書、社会とか理科とか写真がいっぱいあって、どれを使うか悩むこともあります。教える側の教師がポイントを絞って指導しやすい教科書がいいのではないかと思います。

(山 田) とりあえず、観点につきましては、県から示された5つの観点で進めるということでしょうか。

(委 員) 異議なし

(山 田) 次に視点について、事務局の方からお願いします。

(事務局) 視点につきまして、説明させていただきます。特別の教科 道徳については、平成31年度使用中学校「特別の教科 道徳」の教科用図書調査研究の視点と同じものです。中学校の「特別の教科 道徳」を除くものにつきましては、令和2年度使用中学校教科用図書調査研究の視点と同じ視点です。説明は以上でございます。

(山 田) 以前のものと同一ということでしょうか。

(事務局) はい。

() 「特別の教科」というのはどういうことなのですか。

(山 田) 教科については、評価を数値化しますが、道徳については、評価を数値化するものではありませんが、教科として重視していくということで、「特別の教科」ということになっています。

() 昨年度、小学校の採択が行われていますが、小学校と視点は変わっているのですか。

(事務局) 変わっておりません。

() 児童が生徒に代わっているというところぐらいでしょうか。

(事務局) はい。

() 教科書の第一印象は、重たいですね。さっき、教科書を持ってみました、重たいですね。これを毎日持っていく、持って帰るのはきついですね。

() あと、様々な形がありますね。毎日持っていくのに、果たしてカバンの中でどういう形になるのだろうか気になりますね。形がいろいろあるせいで、かばんの中でぐちゃぐちゃになりそうな気がして。

() 中学校2年生の娘がいて、一教科を持っていくのに、教科書、資料集、ノート、ファイルでとても分厚くなります。それが6時間あるとしたら、リュックが重たいし、かさばってしまい、ひっくり返りそうになります。もうちょっと、どうにかならないかなあと保護者視点から思います。うちの子は学校も空き教室があるので、そのロッカーに入れていますが。

() 本校も、増改築をしています、割と大きめの棚を準備し、置きやすく手に取りやすくしています。

() 自転車通学が危ないです。荷台に載せていますが、よくこけていますね。

() 中学校1年生の4月、5月は、慣れていないので危ないですね。

() 荷物を前のかごには入れないですね。荷台にくくりつけるので、重心が後ろにかかり、危ない時がありますね。

() 一年生は特に、くくり方が上手ではないですね。今年は臨時休業もあるので、これからも心配でありますね。

(山 田) その他、いかがですか。

() 私は、苦手な教科がある生徒の視点で見ようようにしてみたのですが、例えば社会は、自分のことに置き換えられないから苦手になっていくのかなと思います。自分のこととして考えると、関心が出てくると思うので、地理とか歴史とか覚えることができると思います。理科にしてもそうだと思います。自分のこととして、自分の立場で考えられるような工夫があるといいと思います。私は国語が苦手でしたが、「これ知ってる。」というものが載っていると、親しみやすいものになると思います。英語なんかも、日本のことをテーマに書いて、みんなが知っているような話を英語にしていると、すごく親しめるのではないかと思います。

() 今のは、とても大事だと思います。授業において、テーマをいかに社会に関連させるか、生活に関連させながら、生徒の学習意欲を引き付けていこうとするかをポイントにしています。特にこれからは、そういう視点は大きいと思うので、教科書の内容と、社会や生活とをいかにマッチングさせようしているかは、大きいと思います。社会科は、歴史なんかが難しいですよ。ついつい一方的にしゃべりやすくなってしまうので、今の政治とかと比較しながら進めていけると良いと思います。

() 何か自分の関心をもって、「あっ、これ面白い。」というのがあれば、学習するきっかけになると思います。

() それが主体的な学びに結び付いていくと思います。そのあたりは、教科書会社もかなり意識しているとは思いますがね。特色はあると思います。

() 会社によって大分違いますけど、今はすごく工夫されていて、逆に丁寧すぎるくらいのもあります。だから、こんなに分厚くなっていると思います。

() そうですね。僕が子どもの頃より大分分厚いなあとと思います。

() 日本の教科書は、書き込み型みたいな形態が結構入ってきているのかなと思います。世界の教科書を見れば、教科書を返す国もあると聞いています。日本の場合は、一人ひとりに渡るものですから、結構書き込んでもいいという形になっていますよね。

() アメリカは、返さなければいけないから書き込むと怒られるから書き込むことができないですね。

() そういう点では、すごく贅沢に使える教科書でいいと思います。恵まれています。

() 歴史は、地域の歴史から全体の歴史をもってくるという工夫がなされていると思います。昔の我々が経験した教科書と大分変わってきています。ここまで丁寧につくられていた印象はないですね。

() 社会や理科もすごく写真が多くて、そこまでいらないのではないかなとも感じます。先生によって授業の組み立て方も違ってくるというのものもあるのかなと思います。でも、あまりそうなくてもまずいのかなと個人的には思いますが。

() 今まで教科書会社に使いやすいようにと言ってきた結果がこのようになっていますね。

() 今までの選考の過程を見ても、丁寧すぎると逆に教えるに難しいと言われる先生もお

られます。

() 縛られてしまうと思います。でも、教科書をきちんと使わないといけません。

(山 田) その他、いかがでしょうか。

() 「主体的に学びを引き出す指導方法の工夫」では、自分で興味を持って学ぶことができるように、授業で使わなくても、自分だけでも勉強できるように作られている部分もあると思います。

() 今までと違って、新たに加わった視点はありますか。

(事務局) 視点のことは自体、変わったところはありませんが、それぞれの教科の特性によって調査の視点は前回とは変わる部分はあると思います。新しい学習指導要領を意識した調査方法が調査員から出されるのではないかと思います。

() 視点の中で「など」という部分を明らかにしてもらいたいですね。例えば、「主体的に学習に取り組む工夫」だったら視点として「問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど」とありますが、どのあたりまで「など」として捉えればいいのでしょうか。社会との関わりとかがここに入ってくる、ということですかね。観点の「主体的に学習に取り組む工夫」という部分に示された「など」という言葉は範囲が広すぎるかなと感じます。

() 多様なものを出したい、生かしたいという考えの表れだと思いますが、具体的に書けるのであれば書いた方がいいという意見ですね。

() 事務局の方で「など」の部分については、いかがですか。

(事務局) 教科の特性によって、何が必要なのかという部分で、出てくるものが違ってくるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

() 一番は、生徒の学ぶ意欲というか主体的に学ぼうというものが入っているといいですね。

() 理科では実験の部分、英語では、英語で会話すること、社会では実際に見に行くなどそういう部分の視点は、あってほしいなと思います。

() 前回と文言は変わっていないということだったのですが、今回学習指導要領の改訂を踏まえた教科書採択部分で5観点ありますが、特に注目しているという観点は事務局としてはありますか。

(事務局) 5つの観点に軽重を付けているということはありません。

(山 田) 評価の観点としては、この視点でいくということでしょうか。

(委 員) はい。

(山 田) それでは、この観点、視点でまとめさせていただきます。

その後、第2回選定委員会を7月15日（水）に実施することを決定し、閉会した。